

平成 18 年度第 3 回評価委員会 議事要旨

事 項	委員意見	事務局回答・今後の方針
評価要領		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 80 %の実施で「おおむね実施」という表現はどうか。困難な努力目標であれば理解できるが。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の内容は数値的なもので計れるものばかりではないことから「おおむね」としている。 数値で計れないものは、評価内容が基準に合致しているかどうか評価委員会においてご審議いただくこととなると考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数字で評価できるものは比率を念頭に評価をし、数値化できないものは評価委員会で審議し決定する。 	
業務実績報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価委員が個々の具体的内容まで把握、検証することは難しい。 評価委員会は全体的な評価を行うのがいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かいところが見えるのは法人しかない。法人の自己評価に対して、評価委員会では全体的観点から評価してもらうことになる。 ・ 法人としての自己点検、評価を厳しくやらなければ、正当な評価、正確な評価は得られないと考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果が達成されているものはいない。遅れているところを記載願いたい。 ・ 進行状況欄に、問題、課題等の記載欄を設けることも一つの方法。そうすれば、D評価であっても、外的要因や人の配置等の問題でできなかったものは納得性がでてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務実績報告書の記載に当たっては、進行状況欄への当初計画と実績の記載を可能な範囲で数値化する。 計画を達成できなかった部分については、その問題点や課題等の記載を行うよう工夫する。 また、全体的な状況についても、6つの大項目毎に総括を行い、問題、課題等の記載を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務実績報告書は、大学内における問題、課題のオーソライズのための一つの手法ともなる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価のときに、大学なりの目標と達成状況を明確にした方が判断しやすい。 ・ 大学としても、自己評価の基準を数値化などできるだけ明確に。 	

事 項	委員意見	事務局回答・今後の方針
利益処分、財務諸表承認における評価委員会の意見		
意見の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表の承認についての評価委員会意見は、法人の監事、監査法人が既に監査をしているので、屋上屋を架すことになり、あまり意味がないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表は、監事と会計監査人の監査を経て、合規性、正確性を満たしたものが提出される。 知事が承認する際は、監査人等の意見の検討や、教育研究を行う大学を運営する法人として財務内容が適当であるかという点から検討を行い、それについてご意見いただきたいと考えている。
経営努力の認定	<ul style="list-style-type: none"> ・大学が努力して残った予算は、積極的に評価して、教育研究、地域貢献の充実に使えるよう県は十分配慮していただきたい。 ----- ・大学で節減した予算を研究開発費に使えるような仕組みを考えれば、学内で事務局への感謝など相乗効果が出てくるし、事務局のインセンティブにもなるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営努力の認定基準の作成に当たっては、評価委員会の意見を重く受けとめて取り組む。
その他		
評価日程	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間終了後に評価をすれば、次期中期目標、中期計画に間に合わないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中期目標期間の評価は、期間終了後に行うことが法定されている。 ただ、国立大学法人では5年目に暫定評価を行い次期中期目標策定に反映するという仕組みを検討中であり、それらを参考に今後検討したい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が行われている研究テーマの設定は、どういう基準で評価しているのか。社会貢献になっているか。県大の評価を高めているかなどの視点が必要。 ----- ・県大には食関係研究機関のコーディネート役を期待したい。 ----- ・家庭科教員はしっかり育ててほしい。 ・人づくり、地域づくりをする人を育てて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に難しいところであるが、個人の研究と大学（学部）全体で取り組む研究の2本立ての方向で進みつつある状況。 ----- ・これまでは個々の教員が進めてきたが、今後は、地域連携センターにおいてさらに繋がりを広げていきたい。 ----- 中期目標の着実な実現に取り組み、21世紀の地域社会を担う人材育成の拠点としての大学を目指す。